

トビウオ通信 (R6 第6号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《2024 年度 日本海スルメイカ漁況予報》

2024 年 7 月 31 日に国立研究開発法人 水産研究・教育機構から「2024 年度日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」が発表されました。本予報は、当センターを含む水産関係研究機関で検討し、同機構水産資源研究所が取りまとめたものです。

今回は、その概要と島根県沖のこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

今後の見通し (2024 年 8 月～12 月) のポイント

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

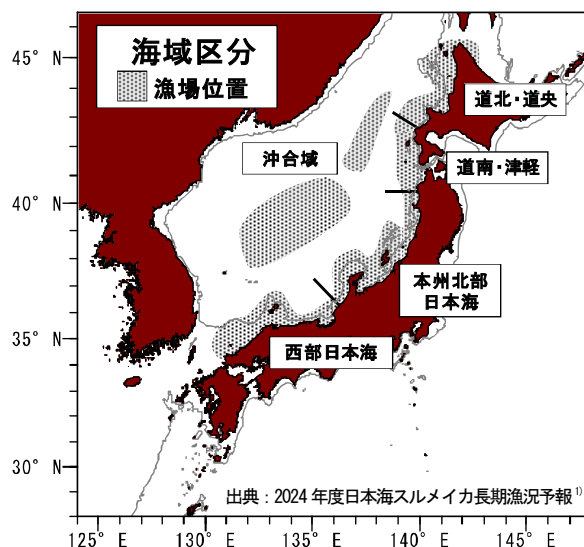
対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

(1) 全体のポイント

全体の来遊量は前年および近年平均を下回る。

(2) 漁場ごとのポイント

- ・ 道北・道央では前年および近年平均を下回る。
- ・ 道南・津軽では前年および近年平均を下回る。
- ・ 本州北部日本海では前年および近年平均を下回る。
- ・ 西部日本海では前年および近年平均を下回る。
- ・ 沖合域では前年および近年平均を下回る。



☞ 「近年平均」とは直近5年間(2019年～2023年)の平均、前年は2023年を示す。

日本海スルメイカ漁況予報の概要

2024 年度日本海スルメイカ長期漁況予報では、表1のとおり5つの海域ごとに来遊量・漁況および漁場が予測されています。その内容は、次の4つの情報に基づいています。

- (1) 2024 年 1 月～6 月までの日本海沿岸各地のスルメイカ漁況の経過
- (2) 2024 年 6 月中旬～7 月上旬に実施された日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果
- (3) 冬季発生系群を主体とした太平洋側のスルメイカの来遊状況²⁾
- (4) 漁期前半 (2024 年 7 月中旬～9 月) の海況予報³⁾

表1 2024 年度日本海スルメイカ長期漁況予報の内容

漁場	範囲	来遊量・漁況	漁期・漁場
道北・道央	宗谷～後志	前年および近年平均を下回る	近年同様、漁場が形成されにくい
道南・津軽	渡島、檜山、青森県	前年および近年平均を下回る	近年同様、漁場が形成されにくい
本州北部日本海	秋田県～石川県	前年および近年平均を下回る	近年と比べて漁場が形成されにくい
西部日本海	福井県～長崎県	前年および近年平均を下回る	近年同様、漁場形成が不安定である
沖合域	北海道西沖～大和堆周辺海域	前年および近年平均を下回る	近年と比べて漁場が形成されにくい

本紙では、島根県沖を含む「西部日本海」および「沖合域」に関する予報の詳細を紹介します。その他の海域については、国立研究開発法人 水産研究・教育機構が発表した「2024 年度日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」をご覧ください。

(i) 西部日本海（福井県～長崎県）

西部日本海では、10 月以降に沖合から南下する群が漁獲の主対象となります。ただし、近年は10 月～12 月の南下群の来遊は少なく、漁場が形成される場合があっても不安定で継続しにくい傾向が続いています。

本海域の5 月～6 月の漁獲量は前年並でしたが、例年、8 月～9 月の漁獲量は多くありません。今期後半（10 月～12 月）の来遊量の目安となる日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点での調査 CPUE（釣機 1 台 1 時間あたりのスルメイカ採集尾数）の平均値は前年および近年平均を下回っており、沖合からの来遊量は前年および近年平均を下回ると予測されています。

以上のことから、今期の来遊量は前年および近年平均を下回り、近年同様、漁場形成が不安定であると予測されています。しかし、日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果や漁況からは予測できませんが、10 月以降に 2023 年のように局所的な漁獲量の増加が見られる場合もあると指摘されています。

(ii) 沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域）

従来、沖合域では6 月～12 月にかけて大和堆周辺海域に、8 月～11 月には北海道西沖にも漁場が形成されてきました。しかし、2019 年以降、北海道西沖で漁場が形成されず、主に大和堆周辺海域に漁場が形成されるものの散発的であり、能登半島周辺や佐渡沖が主漁場となる場合があります。

日本海スルメイカ漁場一斉調査における本海域の調査 CPUE は前年および近年平均を下回り、調査海域全体において分布密度が低かったことから、今期の本海域への来遊量は前年および近年平均を下回り、近年と比べて漁場が形成されにくいと予測されています。

島根県沖での漁況の経過と今後

県内主要 3 港（浜田、恵曇、西郷）における小型いか釣り漁業（5 トン以上 30 トン未満）によるスルメイカの月別水揚げ動向を図 1 に示しました。2024 年 1 月～6 月までの水揚げ量は 37 トンで、同期間で比べると、前年（110 トン）および近年平均（137 トン）を下回りました（前年比 33%、平年比 27%）。

8 月～12 月の予報期間における島根県沖での漁場形成時期は、従来の漁獲パターンから判断すると 10 月以降になると考えられます。今回の予報では、今期後半（10 月～12 月）の西部日本海の来遊量は少なく、漁場形成も不安定であると予測されています。したがって、今後の島根県沖でのスルメイカ漁況は、2016 年以降（図 2）と同様に低調に推移すると考えられます。

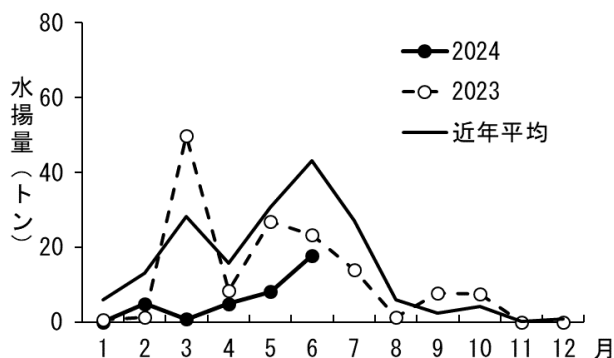


図 1 主要 3 港（浜田、恵曇、西郷）におけるスルメイカの月別水揚げ動向（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

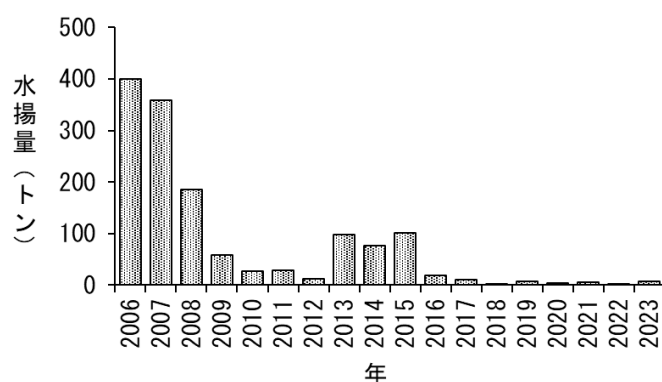


図 2 主要 3 港（浜田、恵曇、西郷）における 10 月～12 月のスルメイカの年別水揚げ動向（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

※本文中で引用した情報元

- 1) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2024 年度 日本海スルメイカ長期漁況予報」2024 年 7 月 31 日
(https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2024/files/20240731_surume-jpnsea.pdf)
- 2) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2024 年度 第 1 回 太平洋スルメイカ長期漁況予報」2024 年 7 月 31 日
(https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2024/files/20240731_surume-pac-1st.pdf)
- 3) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2024 年度 第 2 回 日本海海況予報」2024 年 7 月 5 日
(https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2024/files/20240705_jpnsea-2nd.pdf)